

## 体力・運動能力の向上

### 【課題】

人生100年時代を迎えようとする中、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、本道の児童生徒は、体力の合計点や、体育・保健体育授業の中で学んだことを振り返る活動を設定している学校の割合などが全国平均と比べ低く、また、運動時間が短いため、生涯にわたって心身の健康を保持し豊かな生活を送るための体力や運動習慣の定着が必要

### 将来のビジョン

- ◆ 全ての子どもたちが、**発達段階に応じた体力・運動能力の個人目標をもち**、誰でもどこでも気軽に楽しく運動に参加することができる機会が提供
- ◆ 全ての学校において、**ICTを効果的に活用した体育の授業が展開**され、子どもたちが仲間との関わりの中で楽しさや達成感を感じている
- ◆ 全ての地域において、**学校、家庭、地域が一体となった子どもたちの運動機会の充実を図る**取組が展開

### 主な施策

- ◇ 手軽な運動の実践を推奨する「どさん子元気アップチャレンジ」等による運動習慣の定着
- ◇ 体育専科教員等を中核とした指導力向上の取組動画による効果的なICT活用など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育授業の改善・充実
- ◇ 地域で開催されるイベントへの参加の奨励など、学校、家庭、地域が一体となった運動機会の充実

### 【関連施策】

健康教育・食育の推進	望ましい生活習慣の確立	生涯スポーツの推進	家庭や地域、関係機関との連携
幼児期の運動遊び	地域における遊び場の充実	—	—

### 【参考データ】

・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点の全国平均値を 50.0 とした場合の北海道の小学校5年生、中学校2年生の値	R1
	小学男子 49.1 小学女子 48.7 中学男子 48.6 中学女子 46.7
・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体育の授業以外で1週間に運動・スポーツの総運動時間が 60 分以上と回答した小学校5年生、中学校2年生の割合	R1
	小学男子 91.9% 小学女子 87.5% 中学男子 89.8% 中学女子 77.1%

【課題】

- 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実が必要
- 社会の急激な変化に対応できる資質・能力を身に付けた人材を育成するため、産業界等と学校が一体となった教育課程の改善・充実が必要
- 高等学校では、進路目標が定まらないまま卒業を迎える生徒が存在
- 就職後3年以内に離職する割合が全国に比べて高い状況

将来の  
ビジョン

- ◆ 児童生徒一人一人が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な**基盤となる資質・能力を習得**
- ◆ 全ての学校で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路選択ができるよう、関係機関等と一体となって教育活動全体を通し、**組織的かつ計画的な進路指導を実践**
- ◆ 職業学科において、社会の変化に対応し、地域の持続的な成長を支えるための先端技術の知識とスキルを磨く**職業人材を育成するシステムを実現**

主な施策

- ◇ キャリア・パスポート等を活用するなど、児童生徒が自身の変容や成長を自己評価する学習活動の充実
- ◇ アカデミック・インターンシップを含む計画的な就業体験活動の充実
- ◇ 地域や産業界と高等学校が一体となった、社会に開かれた教育課程を推進
- ◇ 進路指導担当教員の資質向上、指定事業の成果の普及やキャリアプランニングスーパーバイザーによる指導・助言など学校支援の充実

【関連施策】

産業界、大学との連携	国や道との雇用要請	地学協働活動	学科の枠を超えた学校間連携
—	—	—	—

【参考データ】

・道立高等学校において、卒業時に、進学や就職などの進路希望を設定できない生徒数	R1
	35人
・職業学科を設置する道立高等学校において、企業や産業界、大学等と連携し、世界を視野に地域の課題解決に主体的に取り組むなど、グローバル人材の育成に取り組む学校の割合	R2
	87.1%

【課題】

- 各学校で育成を目指す資質・能力を育むため、教科等横断的な視点による教育活動の充実が必要
- 学校のICT環境を活用した、個別最適な学び及び協働的な学びの充実が必要
- 課題を発見し解決していくために必要な資質・能力や、知・徳・体のバランスのとれた資質・能力を育成するため、探究的な学びや様々な体験活動の充実が必要

将来の  
ビジョン

- ◆ 全ての高等学校において、心豊かな生活や社会的価値を創り出す創造性を備え、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てられるよう、**教科等横断的な視点で生徒の資質・能力を育成**
- ◆ 全ての高等学校において、「**個別最適な学び**」及び「**協働的な学び**」に取り組み、生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸ばさせる教育活動を実践

主な施策

- ◇ 主体的・対話的で深い学びの充実
- ◇ 総合的な探究の時間を主とした教科等横断的な学習の推進
- ◇ 学びの質を高めるためのICTを活用した学習の充実
- ◇ 関係機関と一体となって連携・協働した地域・社会の課題解決に向けた学びの充実
- ◇ 多様な人々との協働を促すコミュニケーション能力の育成

【関連施策】

理数教育の充実	読書活動の充実	体験活動の充実	中高連携の充実
主権者教育の充実	学際融合	—	—

【参考データ】

「今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。」と答えた高等学校1年生の割合	R2
	72.7%

施策項目7 **特別支援教育の推進**

【課題】

- 特別な教育的支援を必要とする子どもの教育的ニーズに応じた多様な学びの場における指導等の充実が必要
- 個別の教育支援計画を用いた幼児期から学校卒業後までの円滑な接続が必要
- 子どもとその保護者が専門的な助言を得ることができるよう市町村への支援が必要
- より身近な地域において特別支援教育を受けることができるよう環境の整備が必要

将来のビジョン

- ◆ 全ての地域において、家庭、医療、保健、福祉、労働等の関係機関が子どもを中心に組織的につながり、**幼児期から学校卒業後までの切れ目のない一貫した指導や支援の実践**
- ◆ 全ての学びの場において、特別な教育的支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた**質の高い指導や支援及び充実した教育環境の提供**

主な施策

- ◇ 関係機関の連携による障がいの状態等に応じた早期からの切れ目のない一貫した指導や支援の充実
- ◇ 一人一人の教育的ニーズに応じた ICT の活用による教育の質の向上
- ◇ 小・中・高等学校等における障がいのある子どもの学びの場の充実
- ◇ 時代の変化に対応した特別支援学校における教育の充実
- ◇ 全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上

【関連施策】

家庭や地域における教育の充実	障がい者の生涯学習の推進	—	—
—	—	—	—

【参考データ】

「個別の教育支援計画」を作成している割合	R2
	幼 63.6% 小 71.8% 中 59.5% 高 54.4%
特別支援教育に関する研修を受講した教員の割合	R2
	幼 69.4% 小 75.8% 中 63.1% 高 63.6%
(聴覚、知的、肢体不自由)特別支援学校高等部職業学科第 3 学年において、就職(就労継続支援事業所 A 型含)を希望する生徒の割合	R2
	50%
特別支援学校教員のうち、これまでに医療的ケアに関する基本研修(喀痰吸引等研修)を受講した教員の割合	R2
	15.0%